

府中の特色を活かした木育推進拠点に！府中市こどもの国ポムポム

府中市こどもの国ポムポムは、4月のリニューアルオープン以降多くの皆さまにご利用いただいています。ところで、ポムポムが府中市の『木育』推進拠点ということをご存知でしたか？「木のすべり台や木のおもちゃが多くあるから、こういうのが『木育』なのかな」となんとなく感じることはできますが、『木育』ってどういうことなのでしょう。『木育』と一言でいっても、それぞれに特色があります。木工のまち府中市の『木育』は、木工産業の技術や人を活かして作られた「木」のおもちゃで遊ぶことにより、木の触感や香り、使い方を考えることなどを通して感性豊かな心を育み、郷土への愛着心を深めるとともに伝統技術の伝承を進め、市民の地場産業への関心を高めることを目的としています。NPO法人や企業と連携して、府中市全体で取り組んでいます。

公園にある鉄のジャングルジムは、高さがあり、登れない子どもさん多いと思います。しかし、3段くらいの高さであれば、安全に遊ぶことができます。自分の娘も、あのジャングルジムで楽しそうに遊んでいると嬉しいですね。公園のジャングルジムで遊ばない子は、ぜひポムポムでジャングルジムデビューしてみてください。大人の方も一緒に登ってみてください。

また、柔らかい木を使っているので、遊んでいて、「傷がついたよ」ということがあるはずですが、あの木自体が、爪でひっかいても傷になつたりと、元々傷つきやすいもんです。その時、この木は「これくらいで傷になつちゃうのか」と新たな発見をしてくれることも「木育」施設としての役割でもあります。

オープンからたくさんの方に楽しんでいただき、「楽しかった」との声も聞かせていただきました。ですが、もっと多くの方にポムポムに来て、木に触れていただきたいと思っています。「小さい子どもがいないから」と遠慮している方は、ヒノキとスギの香りと子どもたちの声が溢れています。

飽きさせない！何度でも行きたい！

府中市こどもの国 ポムポム特集 だよっ



問い合わせ先 女性子ども課 (☎43-7139)

府中家具の匠の技術で作られたジャングルジム

製作をした土井木工の土井室長さんにインタビュー

完成までに約1年
3段のジャングルジム

広島県の木材を使って作ろうと思ったので、まず材料の調達から始めました。それが今から1年ちょっと前くらいからですね。家具や遊具は割れや反りが顕著に現れてくるので、今回使用した「檜(ヒノキ)」という柔らかい木は、乾燥させる必要がありますが、乾燥窯で乾燥させるんですが、窯を使用できる量の受注があつてからになるので、乾燥を行うのに時間が掛かってしまいました。

また、ヒノキにもグレードがあつて、節の有無や、節があつても穴が空いていない生き節、穴が空いている死に節があるので、全く違ってきます。死に節があるものを遊具に使用すると、引っかかったり、ケガをしたりするかもしれないので、節があつても、生き節のものを選択しました。

2段のジャングルジムは、以前に作られたものがあつたので、参考に実物を見に行きました。3段のジャングルジムは、どこも作つたことがないので、日本初だと思っています。2段と3段では、たった1段ですが、大きな違いがあり、苦労した点がありました。

それは、大きいものになると、仕口といわれる木の組み合わせる場所の加工が大きく変わってきてくる点です。それによって製作の難易度がすごく上がってきます。3段のジャングルジムは、例えると、小さい木造建築物を作っている感覚でした。

その仕口の問題を解決してくれたのが、協力会社のジョーデン彫刻の宮大工職人さんです。2段目のリングに採用している上下、左右、前後の6方向から、木材を組み合わせ、仕口を作る技術を教えてもらいに行きました。しかも、今回のジャングルジムは、曲線で作っているもので、その宮大工職人さんでも作つたことがないものでした。

試作を作るにも1か月が必要でした。原寸で作ってみて、割れや耐久性などをチェックして、また試作を作る作業を5〜6回繰り返し、いろいろな方法を試してみても、改善を行いました。

木材の加工は、土井木工の技術、曲線の木材の切り出しは、北川鉄工所さんの機械の技術、そして宮大工職人さんの技術と、多くの技

術が集まって完成しました。

2段のジャングルジムは、工場を組み立てたものをポムポムに納品する形を取りました。3段のジャングルジムは、工場内で組み立ててしまうと、ポムポムに入らないので、現地で組み立てるしかありませんでした。

工場内で組み立てる場合は、プレス機などを使い、最後の仕上げを行います。一方で、現地で組み立てると、プレス機が使えないので、手作業で金具を締めて仕上げます。その時に均一な力をかけることが難しく、仕上がりに違いが出てくるのですが、設計段階から、その点を考慮して設計を仕上げていたので、問題はありませんでした。



取締役
経営企画室長
土井健嗣さん



ジャングルジムの製作・組み立ての様子と完成したジャングルジムで遊ぶ子どもたち